

集団指導1級検定のねらいについて

公益社団法人全国学習塾協会

「集団指導1級検定のねらい」について、まとめましたので、ご参考になさってください。

集団指導1級の2級の違いをいくつかの観点から見てみましょう。

●到達水準

集団指導2級は、集団指導の講師をはじめて2、3年であり、実践のなかで原則やポイントを身につけつつあるレベルにある人たちを対象としています。

経験を積んでいるといつても、独学で、自分の教室経験をくり返している場合もあることから、コンピテンシードイクショナリなどを通して、指導の原則やポイントを知識として知っていることが大切です。

集団指導2級検定では、コンピテンシードイクショナリの知識を十分理解し、それが行動に表れているかどうかを評価します。

集団指導1級は、長期的目標や計画を立てて自分の活動を計画し、実行できる段階で、実践を経験しポイントを身につけるだけでなく、状況において重要なポイントか否かを識別できるようになり、他者の援助がなくとも、一人前の仕事ができる講師を想定しています。集団指導1級検定では、コンピテンシードイクショナリの知識を十分理解し、それが行動に表れており、さらにその行動が効果に結びついているかどうかを評価します。

●「十分充足」の評価

審査員は、2級相当である「基本水準」レベルを想定しつつ、基本水準レベルを超えた1級講師にふさわしい行動を行っている場合には「十分充足」レベルとして加点します。1級に合格するためには1つでも多くの「十分充足」な評価が必要になります。

コンピテンシードイクショナリの知識を十分理解し、それが行動に表れており、さらにその行動が効果に結びついてはじめて1級講師にふさわしい行動を行っている、すなわち「十分充足」と評価されます。

●「十分充足」の一例

・よく「ひきつけられる授業」とありますが、文字通りひきつけられる主役は「生徒」です。ひきつけられているかは「生徒」だけが知っています。講師の行動が生徒をひきついているかという問いは、生徒が顔をあげて授業に集中しているかどうかがその答えです。どうすれば生徒が顔をあげるか？積極的に参加するか？まきこめるか？その工夫は限りなく存在します。

・技術項目としては「言い淀みがない」「滑舌がよい」「話の緩急、声の大小」「間」「強弱やスピード」「安全感」「ライブ感」などを見ます。とりわけ、緩急の〈緩〉、大小の〈小〉、強弱の〈弱〉の部分がどこでなぜ

必要なのかを踏まえたうえで、確実に実践できているかも十分充足の重要なポイントです。

・授業の究極の目的は、生徒の理解です。そのためには、生徒が理解したかがわかる授業であることが必要です。

「○○くん、わかったかな？」

「わかりました。」

でも本当にわかったのでしょうか。1級では「型」だけではなく「実践での活用」を求めていきます。

たとえば、生徒に質問をして応答を求める場面があります。

生徒の理解、さらいうと教室全体の理解の促進のために、この場面を工夫して(講師自身が応答の負荷度を高める模擬授業にすることによって)大いに活用することができると思います。

以上、集団指導1級と2級の違いを「十分充足」というキーワードから見てみたので、ご参考にしていただきさらなるご研鑽にお役立ていただければ幸いに存じます。